

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170200830		
法人名	株式会社 ヒョウゴナカムラ		
事業所名	グループホームさわやか		
所在地	鳥取県米子市皆生温泉1丁目16-10 (電話) 0859-38-5288		
評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111号		
訪問調査日	2009・08・21	評価確定日	2009・09・25

【情報提供票より】(年 月日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 3月 7日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16 人, 非常勤 人, 常勤換算 16 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建て	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	42,000 円
敷金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	15 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名	
要介護3	3 名	要介護4	5 名	
要介護5	1 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 85 歳	最低	79 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加藤クリニック、やぎき医院、坂根歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

皆生温泉の中心にあり、既存の保養所をリフォームしたグループホームⅠとマンションの一角に新築したグループホームⅡの2ユニットのホームです。隣接のデイサービスの温泉浴を毎日利用できます。2ユニットでいずれも2階にあり別棟となっています。毎月発行される家族新聞は、利用者の最近の写真や作品、そして季節の花の解説、野菜や果物のミニ知識などアイデアが掲載されていて、読んでいて楽しい新聞です。介護度の高い利用者が多い中で地域に根ざしたホーづくり日々励んでおられます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議を2ヶ月ごとに実施、地域との連携に取り組むなど、前回の評価結果を踏まえ出来ることから取り組んでおられます。その中で災害時の備蓄や、利用者と一緒に食事を楽しめる環境づくりは取り組まれていません。事業所の特性を踏まえ前向きに検討されることを望みます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で話し合い、管理者がまとめたものを再度職員が目を通し確認する方法が取られていました。自己評価の結果①と②のグループホームのよい所、お互いがとりいれるなど自己評価が活かされています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年の外部評価では会議の開催が少なく見直しが求められていました。今年からは2ヶ月に1度会議が開催され、意見も活発に交換されています。出された意見を参考にして、公民館祭の作品作りに取り組むなどサービスの向上に活かされています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	見えやすい場所に意見箱を設置したり、電話や面会時に意見を聞くようにされています。今年度からは夏祭り、クリスマス会を利用して家族会を開き、もっと気軽に意見、苦情が言える場づくりや、家族間の交流が深まる機会づくりに前向きに取り組んでおられます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の音楽祭に参加を重ねる内に、主催者側が指定席を設けてくださるようになったり、パン工房では以前は買物をして帰るだけでしたが、休憩席でパンを食べながら雑談をしているうちに、工房と馴染みになりイベントに招待されるなど、地域とのつきあいが少しずつ広がっています。今後も色々な機会をとらえ地域と連携を深めながら地域に根ざしたホームになられますことを期待します。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組み
大前提!

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と共に地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作りあげています。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目につきやすい事業所内に掲示されており、管理者は職員と共に理念の実践に向けて取り組んでおられます。		
2. 地域との支えあい					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の音楽祭に参加していく内に、最近では見学席を準備して下さるようになっていきます。またパン工房では買ったらずきに帰っていましたが、今は工房でパンを食べながら話していく内に行事に招かれる等地域の方たちとの交流に努めておられます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、評価の意義をよく理解しており、自己評価も全員で取り組んだことが、職員の聞き取りでも確認できました。改善に向けて会議で話し合い幾つかは改善されていました。		改善項目をあげ計画的に取り組まれることを期待します。
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年までは開催数も少なく改善項目の一つになっていましたが、今年は2ヶ月ごとに開催されています。内容も事業所の報告のみに終わらず、意見が活発にだされています。会議で得た情報をもとに、公民館祭に作品を出展するべき評価の当日も利用者と職員は作品づくりに励んでおられました。	○	自己評価や外部評価の結果を公表し、年1回の評価の効果をより高めるためにも、取り組みや改善経過のモニター役になっていただきより推進会議を活かしていかれることを期待します。

6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者のカンファレンスに市の担当者に参加していただくなど、運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市と共にサービスの質の向上に取り組んでおられます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される家族新聞と共に、個別に最近の写真を同封し、暮らしの様子や健康状態が報告されています。受診結果や急をようすることは随時報告されていることが家族アンケートでも確認できました。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は目につきやすい所に置かれていますが、利用は今までありません。面会時や電話の折、意見や苦情を聞くように努めておられます。運営推進委員の(包括支援センター)の方のアドバイスもあり、行事を利用し家族会をひらき意見を聞きだす場づくりに努めておられます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員には利用者と顔馴染みになっていただくなど、利用者へのダメージを防ぐ配慮をされています。	○	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、離職が最小限度に抑えられるよう努力されることを期待します。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し研修報告されています。管理者や職員の研修計画の確認が確認できませんでした。	○	運営者は管理者や職員の段階に応じて育成する為の育成研修計画を作成し、事業所外で開催される研修等になるべく多くの職員が受講できる機会の確保や働きながらトレーニングしていく事を進められるとよいでしょう。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との相互研修後、報告会を開き他事業所の良いところを話し合い、サービスの向上に活かす取り組みがされています。今回は口腔ケアの見直しが行われていました。		

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人や家族に見学していただき、事業所の雰囲気に馴染み、安心して利用できるよう配慮されています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を介護される一方の立場におかず、料理の味つけを見ていただいたり、「元気がないけどお腹がいたいのかな」と励まされる等、共に学んだり、支えあう関係づくりを築いておられます。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの希望、意向を聞きながら一人ひとりの思いや暮らし方の把握に努めておられます。聞くことの困難な方は日頃の会話や行動から本人の視点に立ち話し合い検討されています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を中心に家族や本人の思い、主治医、他の職員の意見を参考にしながら、関係者と話し合いつつ介護計画が作成されています。	
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを開催し介護計画の見直しを行なうと共に、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画が作成されています。	

3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)				
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きつけの美容院や衣類の買物、通院の付き添いなど、家族の状況や要望に応じて、事業者の多機能性を活かして柔軟に対応されています。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働				
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医や、事業所の協力医の受診が支援されています。結果は速やかに家族に報告され、職員間で共有されています。	
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では、ターミナルケアが出来ないことを、利用開始時に説明し、納得が得られ職員間で共有が図られています。緊急時に備え、家族、医療機関の緊急連絡先は電話の傍に掲示されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを損ねることのないような言葉かけや対応がされており、家族新聞に載せる写真は家族の承諾がとられています。掲載を好まない家族には、普段の様子を写真に撮り近況と一緒に連絡されています。記録は利用者や外部の人の目につきにくい場所に保管されています。	家族新聞の隅に掲載の写真は承諾を得ていることを書いておかれると、外部のひとが目にしても、プライバシーに配慮されていることが理解されると思います。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、体調や希望にそって暮らしを支援されています。遅くまで寝たい人は朝食をずらしたり、就寝時間も個々に合わせておられます。	

(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は隣接のデイサービスの厨房で作られています。朝、夕食は2ユニット同士で利用者の希望をとりいれながら献立を作成し、個々の能力にあわせ、楽しみながら職員と一緒に準備や片付けがされています。利用者と職員が同じ食卓を囲み同じものを食べる支援はされていません。	○	外部評価の改善項目として昨年も上がっています。食材負担や休憩時間等の兼ね合いから課題もあると思いますが、事業所の特性を踏まえて、利用者と一緒に食事を楽しむ環境づくりを前向きに検討されることを期待します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隣接のデイサービスの温泉浴やホームの浴槽で希望にあわせて支援されています。入浴拒否のある場合は時間を置いたり、馴染みの職員が再度声を掛け入浴を楽しめるように支援されています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の得意な方に料理の盛り付け方を教わったり、洗濯たたみ、掃除等、生活歴や力を活かしながら感謝の言葉を伝えながら、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近くのコンビニ、足湯、パン工房に出かけ、出来るだけ事業所内で過ごさないよう努めておられるが、職員数により希望に添って出来ない日もあり、そのような場合は後日外出支援がされています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や居間は施錠されていませんが、階段は既存の建物のリフォームで危険のために鍵がかけられています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署員を交え実施されています。反省会の記録も一緒に保管されることを望みます。備蓄は昨年の評価でも改善課題に上がっていましたが、確認できませんでした。	○	備蓄の検討や、災害時の対応について運営推進会議で地域の協力について話し合われることを望みます。

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食のメニューは専属調理員により作られています。食事量や水分量は個人記録に記入されており、水分は食事やデイトime以外にも、入浴が終わられた方から進めるなど一日を通じて確保できるよう支援をされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光がないように配慮され、壁には絵画や利用者の作品がかざられています。日当たりの強い廊下はゴーヤでグリーンカーテンが作られ、エコと見た目も涼しく、居心地よく過ごせる工夫がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や使い慣れたタンス、ベット、ぬいぐるみ等が、本人や家族と相談しておかれています。また自分の居室を間違え易い人には目印が飾られてあり、安心して過ごせる居室の工夫がされています。		